

学習内容報告書 フォーマット

学校名	日南市立南郷中学校
授業者	坂口 昌和

1. 単元計画

7 / 1 1	港の町南郷を知る活動（漁協と元漁師の講話・郷土料理体験） 漁協と元漁師（公民館館長）の講話（1時間） 郷土料理体験（2時間）
---------	--

1-1. 単元名

港の町南郷を知る活動
------------

1-2. 学年

1 学年
------

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習
--------

1-4. 単元の概要

港の町南郷の郷土料理体験することで、海の資源の活用を学び地域に根ざした食文化を知る学習
---


1-5. 単元設定の理由・ねらい

漁協や元漁師から漁業のことを学び、地域の食材を生かした食文化を知る活動である。豊富な海の資源を活用することや地域の方々の生き方を知ることで、自分の生き方を学んでいく
--

1-6. 育みたい資質や能力、態度

・漁業の内容や漁法等や地域の食材を生かした食文化の見識を深め、これからの自分の生き方について考えようとする態度を育む。
---

1-7. 単元の展開（全3時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	港の町南郷を知る活動 ・講話 漁協の方の話・元漁師（公民館館長）の話  講話の様子（公民館館長）	教師の指導／話を聞く姿勢ができていた。 地域コーディネーターと連携し講師をお願いした。 プロジェクターを使い、漁業や漁法の話をした。 2学級をシーカヤック体験の学級と講話を聞く学級をつくり前半・後半入れ替えて学習した。

## 郷土料理体験

- ・学級別に班を3つに分ける。
- ・1つの班が料理体験をしているときは他の班は講話のまとめ等を行った。
- ・試食・片付け



郷土料理体験（調理の様子）



試食の様子

2学級をシーカヤック体験学習の学級と郷土料理体験の学級をつくり、前半・後半で入れ替えして学習した。

- ・調理体験は20分程度であった。刃物を使うので取り扱いには十分配慮させた。
- ・生き物（カツオ）を頂くことで命の大切や海の資源の活用について考える活動ができた。

## 2. 学習活動の実際

### 7 / 1 1 郷土料理体験（3時間）

講話…2名の講師による漁業の内容や漁法について話をする。  
郷土料理体験…学級を3つに班分けし、入替で体験活動を行う。  
まとめの時間…感想を書く。

#### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元10時間中の2時間目 / 単元15時間中の4,5時間目

#### 2-2. 本時の目標

講師の講話（漁業の内容・漁法等）を聞く。郷土料理体験を行い、食文化を学ぶ。

#### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 講師の話／講師の方を向いてしっかり聞くことができた。	・ファイル・筆記用具の準備を各自準備させる。 ・プロジェクターに漁の様子が写るのでしっかり見させる。
2 郷土料理体験を説明する。／注意して聞いていた。	・しっかり説明が聞けるように前を向かせる。 ・講師に関心をもつように姿勢を保たせる
3 調理体験／各自がしっかり体験できていた。	・講師に注目するよう生徒への言葉かけをした。
4 試食・片付け／生徒の達成感や満足感が伺えた。	・刃物を扱うので十分気をつけて扱うように指導する。
5 後日・お礼の言葉を書いた／生徒が自分の言葉で書けた。	・生徒全員に試食ができるように支援した。 ・自分の言葉でお礼を書くことが苦手な生徒には支援を行った。

## 3. 今回の活動の自己評価

- ・郷土料理体験や漁法など普段知ることのできない話や体験を生徒が学ぶことができ良い機会になった。
- ・講師への質問や感想があり、生徒間で知り得たことを共有できたこともよかった
- ・講師や料理体験でお世話になった地域の方々への態度はよく、学校の好感度も上がった。

## 4. 今後の課題

・シーカヤック体験と合わせて行ったので午後に郷土料理体験した学級の生徒は、試食が遅くなり、昼食後の試食になった。次回はこのような点も配慮した計画をしていきたい。

## 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・特になし